

# 羅津・先鋒オリエント結縁通信

## 第14号

2006年2月16日発行

2006年の朝鮮民主主義人民共和国(以下:北朝鮮)人道支援活動の方向性を考えていくために、JTS機関紙「美しい世界」通巻57号に掲載された、韓国JTS理事長である法輪和尚の文章を掲載する。

## 最近の北朝鮮の実情と実際的な支援方案

法輪 / 韓国JTS理事長

### 1. 問題提起

北朝鮮住民の生存権問題を解決し、より実質的な生活を改善することができる方案は何なのか？長期支援による疲労感、分配の透明性と自生力に対する要求の高まり、北朝鮮の核と人権問題の提起などによってむしろ対外支援が縮小している現実の中で、北朝鮮住民の生存権が保障され、実質的な改善がなされる方向は何なのかについて考えてみようと思う。



法輪和尚(2004年羅先市訪問時の写真)

### 2. 北朝鮮の最近の状況 - 食糧、医療

#### 状況を中心に

#### (1) 慢性的な食糧不足

1990年代以後、北朝鮮の食糧生産量は350万トン～400万トン前後で、正常配給基準の需要量を考慮する時、毎年の不足量が200～250万トンになる。食糧難が最高潮に達した1997年は需要量が670万トン、供給量が369万トンだったのに対して、2004年の場合は需要量639万トン、供給量が425万トンだった。

北朝鮮は不足した需要量を外部支援で解決せざるを得ない構造的依存状態に置かれている。供給量と需要量の差、200万トンを外部支援を通じて埋めるのは相当困難なことである。ところで、北朝鮮の生産量全体が誇張されており、外部から200万トンの必要量すべての支援を受けたとしても、実際には統計自体が誇張されているので、正常配給量通りに支援しようと考えたと、依然として不足しているという訳だ。

今は、北朝鮮の必要とする食料不足分200万トンの半分も支援されていない上に、北朝鮮の食糧生産量が若干誇張されていると考えられる

ので、今のような水準の食糧支援では最も底辺の平凡な住民にまでの食料伝達が困難なのが実情だ。

食糧配給は、1994年に大部分の地方で、ほぼ事実上中断され、住民が家財道具を売ったり、商売をしたり、雑草を掘って食べたりするなどの自らの力で自らを救う努力をしてきた。その過程で、数百万名の住民が亡くなり、生き延びたものさえ劣悪な栄養状態で生きていかなければならなかった。特に、2002年の7・1経済措置は核心階層及び特殊企業を除外し、配給制を縮小したり、完全に廃止した。もちろん「苦難の行軍」時期に比べ、2000年以後北朝鮮住民の生活の様子は大きく改善された側面もある。しかし、事実上、月給が支給されず、日々の決まった食事のために、商売をしてはじめて生き延びることのできる住民の生活は不安定この上なく、上昇する物価と食料価格の中で、貧富の格差という相対的な剥奪感まで感じられるようになった。7・1経済管理改善措置以後、平均労働者の月給である2500～3000ウォンでは、市場では1kg、約750ウォン～1000ウォン台で流通する米を購入することは現実的に不可能な実情だ。

## (2) 劣悪な医療の現実

北朝鮮が自慢する無償教育、無償医療は食糧難の時期を経て、有名無実になり久しい。病院と医師が存在するといっても、病院を維持するための医療施設、装備などは立ち遅れており、現在の状態としては、診療をしたり、治療をしたりするには不十分なのが状況だ。



羅先市診療所での写真(2005年12月)

患者が多くても病院に薬品がなく、入院をするといっても患者家族が薬品と食べ物に責任を持たなければならない状況なので、かえって入院患者はいない。電気、暖房事情が良くなく、夜間治療を受けようとする、懐中電灯を準備しなければならない。電気が不足しており、夜間治療は事実上不可能だ。

使い捨て注射器がなく、ビニール注射器を再利用して使用している。医薬品はほぼ全て、国連及び外部に依存しており、病院内の薬局で薬品を生産することも困難だ。辛うじてブドウ糖程度をつくるのが可能だ。なので、医薬品はほぼ全て、医師の処方のないままに、住民が各自市場で薬を買う場合が多く、医療事故が頻繁におきている。

その上、病院で診療を受けるために薬を市場で買ってくることにしても、患者が医師の処方を受けるためには、処方箋の紙を、患者側が直接準備しなければならない。紙を持って来なければ、紙を手に入れるために家に行くか、市場で購入したりもする。紙がなければ、受け付けてもらえず、薬の処方も受けることができない。

## 3. 実際的な北朝鮮支援方案

### (1) 法制度の整備を通じた安定的な支援

この間の対北朝鮮人道支援は、多くの努力と成果にも関わらず、政権と世論の流れによって左右され、政治的な論理に巻き込まれる場合が多かった。現在の北朝鮮の状況では、恩着せがましく振舞ったり、現在の状態を維持する程度の支援ではなく、安定的で持続的な大規模の支援が必要だ。

1) 安定的な北朝鮮支援を行うことのできる支援法が必要だ。北朝鮮が自立し、自身の問題を自らで解決することができるように、韓国が、一時的な期限を設定し、支援することが必要だ。このために、「北朝鮮住民に対する人道的支援のための特別法」(以下、「人道支援法」)を制定し、経済的な支援と交流を行ないながら、北朝鮮住民の「食べて暮らしていく」という問題を優先的

に解決しなければならない。

2) 人道支援法は食料・肥料・医薬品など、北朝鮮住民に最も必要とされるものを支援し、恵みを受ける者の利害を最大限反映させ、彼らに最大限利益が向くようにしなければならない。現在の北朝鮮の現実で最も必要とされるものは、他でもない食糧 200 万トンと食糧増産に必要な肥料 110 万トンと農資材、そして医薬品である。3 年から 5 年の期限でこれらを十分に支援しなければならない。

3) 人道支援のための財源は、現行 OECD 公的開発援助(ODA)を拡大するか、政府予算の 1% を策定し準備する。

最小限の人道支援分野である食料と肥料、医薬品支援の必要予算と運搬費を含めると年間 1 兆 5000 億ウォンが必要だ。これは 2004 年国内総生産(GDP)779 兆ウォンの 0.2%に該当し、2005 年政府予算、195 兆ウォンの 0.77%に該当する。そして、今年の国防費 20 兆 8000 億ウォンの 7.2%に該当し、毎年国防費の増額分 10%(約 1 兆 9000 億ウォン)より少ない金額だ。また、一年間に捨てられる韓国の食べ物の量が 15 兆ウォン程に達し、処理費用だけでも 4 千億

ウォンに至るが、1 年の支援費はその十分の一に該当する。

人道支援費は南北和解と緊張緩和をもたらし、実質的な統一費用の減少へとつながりうるだろう。

## (2) 対北朝鮮人道支援のための必要条件

北朝鮮住民の生存権解決のために、人道支援法という法制度を準備することを通じ、支援しようというからには、北朝鮮当局もこれに準ずる協力が必要だ。

第一に、人道支援のためのものであるが故に、実際の食糧生産量と需要量、肥料生産量と必要量、医療実態に対する正確な資料を提供しなければならない。

第二に、現在の開放されている港をはじめとして、未開放の港の開放も協力しなければならない。また、船舶以外の交通手段に対する支援と協力・援助も必要だ。

第三に、住民の手に入るよう、分配の透明性が徹底して管理されるように協力しなければならない。【JTS 機関紙「美しい世界」通巻 57 号 (2006 年 1 月 2 月)】

## 【羅津・先鋒現地報道】

# JTS 海外事業本部長羅先訪問記

## たくさんの収穫があることを願います

去る 2005 年 8 月 10 日、午後 4 時、ソウル市端草洞の浄土会館講堂で、パク・チナ JTS 理事による北朝鮮訪問報告会が開かれた。羅津・先鋒栄養食工場と幼稚園、学校、診療所と農場などの状況を把握するため、8 月 2 日から 4 日まで 2 泊 3 日の日程で行なわれた今回の訪問に関連し、お話を伺った。

### 1. 今回の羅津・先鋒地域の訪問目的と主要日程及び現地状況に対する簡略な説明をお願いします

今回の訪問の目的は羅先地域栄養食向上の在

庫把握、そして幼稚園と学校、診療所などの状況を見るための訪問でした。去る 8 月 2 日明け方に出発し、2 泊 3 日の日程を終え、4 日晩に帰ってきました。

羅津・先鋒地域到着の翌日である 3 日は、栄

養食工場を訪問、工場を見学し、在庫現況を把握しました。工場には 18 名の職員と 1 名の管理職員がいました。ここでは栄養食粉(米 45%、とうもろこし 25~30%、粉乳 15%)を利用し、お餅や小麦粉の油菓子、パンなどを作りますが、栄養価が高く、消化吸収も非常によく、味が良いので、子どもたちが非常にこれを好みます。しかし、普通、父母が幼稚園に子どもを預ける時には、一ヶ月米 3 キロほどを出さなければならない、このために幼稚園に通っていない子どももいるのが現状で、あれこれの事情で栄養食を食べることができない子どもは泣きながら欲しがっていると言います。

そして、韓国の団体「トゥレ」で運営する幼稚園と延辺科学技術大学が支援する孤児院を訪問したのですが、施設が非常によいものでした。普通、外部には公開をしないと聞いていたのですが、JTS には特別に許可をして頂き、訪問することができました。

4 日(木)は、ペカク診療所とクルプ里診療所、そして羅先市総合診療所を訪問したのですが、内部を見学したのは羅先市総合診療所一箇所でした。ここは皮膚科、眼科、内科、産婦人科、口腔歯科、外科などがあり、医者が 9 名ほどいて、それなりに綺麗でしたが、全体的には古びた状態でした。薬はほとんどなく、聴診器などの機器も不足していたり、磨耗した状態でした。

その日は、合計 10 名あまりの患者がいたのですが、夏だからなのか、下痢、大腸疾患の患者が多いと言っていました。病院の前では薬を栽培し、治療に使用することもあり、主には針で治療すると言っていました。

JTS では透明性を確保するために直接訪問が可能などところのみ支援を行うので、少なくとも 20 箇所あまりを実際に見学した後に、物資をコンテナに一括で載せて支援することができるという意見を伝えました。

午後は、クルプ里農場を訪問しました。湖を埋め立てて開墾し、春に稲の苗を 1500 町歩ほど植え、まだ収穫まで時間が少し残っていますが、特別な気象異変がない限り、昨年より作況が良いようだと言っています。



羅先市内幼稚園の子どもたち(2005 年)

参考までに昨年は冷害があり、収穫は良くありませんでした。

## 2. 羅先に暮らす人々の状況は大体、どのような感じでしたか？

様々な事情によって、10 ヶ月ぶりの訪問だったのですが、非常に協力的な雰囲気でした。その上、第 1 部委員長が車を出してくれたので、楽に行き来することができました。非常にありがたく思います。

最近、南北交流が頻繁なことについて、羅先の人々も肯定的な反応を見せており、南北がより活発に交流してくれればという願いを持っていました。特に、南北のサッカー競技に非常に興味を示していました。

## 3. しばらく前に、中国を旅行した方から「中国国境地域から見た北朝鮮軍人の背の高さが 150cm 余りだった。どれほど飢えると、軍人さえもあんな風になるのかと思い、胸が非常に痛んだ」という話を聞き、最近でもはなはだしい食糧難に直面したことが垣間見えます。訪問期間中に感じられた最近の北朝鮮の状況について話を聞きたいです。

北朝鮮は現在、10 年を越える食糧難の上に、全体的に配給制度がなくなり市場経済が導入さ

れ、食料を自給自足しなければならない人民は、二重三重の非常な生活苦を経ています。羅先市は経済特区なので、平壤ほどではないですが他の地域に比べ良い方とはいえませんが、全般的に状況は非常に悪いです。

#### 4. 最後に今回の訪問の感想を一言お願いします

クラブ里農場を見学したとき、多くの人々が熱心に働き、稲の苗を植えて栽培しているのを見て非常に感激しました。人民が血の汗を流しながら開墾したこの地に、今年は多くの収穫があることを切実に願っています。北側の協力によって訪問を成功裏に終えたことについて感謝の意を表します。(取材・整理：ヤン・ユンドク)【JTS 機関紙「美しい世界」通巻 55 号(2005 年 9 月 10 月)】

## JTS 北朝鮮人道支援報告

### 【韓国 JTS 後援者からの声】

## 心の中の統一の門を開けて

ソ・ユラ(済州女子商業高校)

暑さが猛威を振るっているある日、済州女子商業高校 3 年生の担任をしているイ・スニャン JTS 会員からメールが来た。少し前に統一関連の授業をして、学生を対象に募金を集めることにしたということだった。

学生は募金の提案に応じながらも、一方では北への伝達過程について半信半疑な雰囲気だったが、募金が 156,400 ウォン集まり、JTS に伝達された。困難な中でも気持ちをまとめてくれた先生と学生に心から感謝を申し上げ、参加した学生の文章を載せる。

この前の社会文化の授業時間に、6.15 共同宣言 5 周年記念として、「統一に関する授業」という特別授業を受けた。南と北の先生たちが 6.15 記念としてこの 1 週間は統一に関する授業をすると約束を分かち合ったという話を聞いて、「もうこのくらいまでに南と北が近くなったんだな」と思った。

まず、先生は、私たちに統一飴という甘い飴を一つずつ分けてくださり、統一関連の童話を見せてくださった。「朝鮮」と「韓国」というキャラクターが出てくるのだが、理解するのが簡単

で、面白い内容になっていた。私たちのクラスの生徒は童話を見ている間、本当に静かだった。

そして、私たちは統一関連の歌を学んだ。耳にずっと入ってくるメロディに、可愛い歌詞は「統一」という堅苦しい主題とは異なり、「穏やかで可愛い童謡」だなど感じるのに十分だった。いか程親近感のある歌だったのか、授業時間が終わった後も、しばらくの間、その歌を歌う学生が退屈ではないように見えた。

ともかく、私たちはどのようにして統一を実現するのか、そうするためには、私たちはどの

ような態度を持つべきなのかなどに関する話を分かち合い、一日も早く自主統一を実現することが、私たち南と北、すべてのためになることを感じるようになった。

授業が終わり、先生が私たちに、「この機会に、私たちが別途募金をして、北に暮らす子どもたちに支援をするのはどうだろうか？」と提案をなさり、1ヶ月に5,000ウォンあれば、北朝鮮の子ども1名に1ヶ月間栄養食を供給することができるとおっしゃり、先生も3~4年前から参加なさっているとおっしゃった。

私たちは先生のお言葉を聞いて、快く受け入れるには受け入れたが、ざわめき始めました。「いくら出すのがいいのか？」という質問から始まり、「ところで、私たちが募金をしたお金がしっかりと伝達されるのか？」という話まで……。そうならざるをえない理由は、私たちが幼いころ、大人が「お前たちがいくら募金してみたところで、北側の軍需物資として使われるしかないのに、まだ支援をするのか？」と言っていたからだ。私たちはこういう言葉を主に聞きながら成長したために、傷を受けているし、不信感を持つようになったのかもしれない。

あれこれの質問があり、先生の説明が行なわれ、私たちは「私たちが募金するお金が北側の子どもたちに届くだろう」と結論を出し、小さなお金だとしても募金をするのだから、助けになるようにしてみようと話を終えた。そして、私たちの真心がしっかりと伝わったのが確認したいという意見も出された。

このように北側に伝えられた救護物資を初めとした募金に対する不信は、私たちだけでなく多くの人々が持っている疑問だろう。しかし、徐々に時間が流れ、互いに交流がなされると、不信は徐々に減っていくだろう。ひよっとすれば、私たちはこのようにして少しずつ統一を実現しているのかも知れない。

子どもたちの純粋な気持ちのように、お互いに計算ずくになるのではなく、「兄弟愛」によって、心の中の統一の門を開き、お互いに喜び合いながら、統一が一日も早くなされることを願う。【JTS機関紙「美しい世界」通巻55号(2005年9月10月)】



平壤市ルンラ小学校生徒が書いた絵  
(2005年南北코리아と日本のともだち展)

## その他の2005年JTS北朝鮮人道支援活動報告

### パク・チナJTS理事、羅先市訪問

2005年8月2日から4日、そして、2005年10月3日~10月6日、パク・チナJTS理事がJTS北朝鮮支援事業場がある羅先市を訪問した。JTSの子ども栄養食工場を見学、栄養食材料の在庫把握と幼稚園などを訪問し、子どもの健康状態、栄養食支援現況などを把握した。そして、栄養食を食べ、健康に育った子どもたちの公演も見た。羅先市総合診療所を訪問し、前回支援

した医薬品、医療機器を点検し、羅先市の医療状況を把握した。

2005年11月27日から12月5日までの期間にも北朝鮮の羅先市を訪問した。11月27日からの訪問では、10月に北朝鮮に送った子ども栄養食原材料の引き受け確認と分配が円滑になされたのかを確認するために行なわれた。【JTS機関紙「美しい世界」通巻55号~57号】

## 2005年、韓国全国集中キャンペーン開催

「北朝鮮は私の国、私たちが建設しよう」というスローガンで2005年9月26日から2005年10月5日まで10日間、韓国JTSが全国で街頭キャンペーンを行なった。昨年に引き続き、「ご飯一膳分かち合い、草取り鎌1本提供」というより具体的な語句で近づいた活動だった。ソウ

ル、東萊、海雲台、大邱、大田、清州、馬山、蔚山、光州、堤川など全国各地域で、1123名が参加し、24,218,375ウォン1ドル1セント100円の後援金が集まった。全国各地の街頭で、統一を念願し参加して下さったすべての方に感謝の気持ちを申し上げる。【JTS機関紙「美しい世界」通巻56号(2005年11月12月)】

# KEY 北朝鮮人道支援活動報告

## 南北コリアと日本のともだち展 東京展報告

南北コリアと日本のともだち展(以下、ともだち展)は日本・韓国・北朝鮮に住んでいる子どもたちを一つの会場で展示し、私たちの心の壁を乗り越える一歩として2001年から始められた。以降、一年を通じて日本・韓国・北朝鮮で絵が巡回し展示会が催されている。

KEY 東京は混沌としている北朝鮮との関係の中で、日本のNGOが平和的なアプローチで日朝間の交流を図ろうと活動している趣旨に賛同し、ともだち展に関わっている。



2005年南北コリアと日本のともだち展  
「ともだちフェスタ」

5回目となる今年は2005年6月30日から2005年7月6日まで渋谷区にある東京都児童会館で絵の展示を行い、日本から115点、韓国から39点、北朝鮮から26点の絵が集まった。日本・韓国・北朝鮮と分けられるのではなく、テーマ毎に分けられた展示ブースで賑やかな絵の交流会となった。7月2日には韓国から10名の子どもが来日し日本・在日の子ども約50名と交流する「ともだちフェスタ」が開催され、7月3日には朝鮮半島を身近に感じられるよう朝鮮半島の文化に触れられるブースを設置して、訪れる子どもや親たちにコリアの文化を楽しんでもらった。

今回のともだち展のメインでもあるともだちフェスタでは、開会のあいさつに続いて韓国の子どもたちが自己紹介をした後、日本の子どもにむけて歌のプレゼント(おたまじゃくしの歌)を可愛らしい振り付けと一緒に披露してくれた。日本の子どもも何度か練習して振り付けと共に唄った。続いてメインイベントである6つのブースが開始された。ウチワに思い思いの絵を描いたウチワ作り(絵を描くのに熱中しすぎて他のブースになかなか行こうとしなかった)日本と韓国で出版されている絵本を日本語とハングルで語る絵本の読み聞かせ(「グリとグラ」はハングルでは「クリとクラ」になる微妙な発音の

違いが楽しい) 着物とチョゴリなど一つの名詞を日本語とハングルの雑誌から文字を切り取り文字を作り上げるハングル・日本語切抜きゲーム(日本のこどもはハングルの雑誌を、韓国のこどもは日本語の雑誌を、日本語・ハングルの分かる在日のこどもは互いの橋渡しをした)日本と朝鮮半島に共通する物が書かれているカルタゲーム大会、冬のソナタをイメージした着せ替えフレームを使い写真を撮るプリクラ(女の子がヨン様になるなどツーショットで日本と韓国のこどもが写真を撮った)展示されている絵を描いてくれたこどもへむけて手紙を書くメッセージ書きなどをして交流した。

閉会式では、韓国のこどもたちの歌のお返し

として日本のこどもたちから「ビリーブ」という歌の贈り物をピアノの伴奏と共に唄いともだちフェスタは終了した。

今年のともだち展は、初めてこどもが企画の段階からかかわり運営された。問題に出ず絵やクイズを考えたりと、こどもながら自分でできることをやり、ともだち展に参加してくれる人をもてなそうとしていた。ともだち展は国から見たら小さな事業だが、確実に参加する人の心を捉え交流の輪を広げている。いつの間にか色眼鏡で世の中を見てしまうようになっていた僕はそんなこどもの交流する姿を見て実際に会って話し、交流する大事さをあらためて感じた

## 羅先結縁事業参加者継続募集中！

KEYでは、(社)韓国 JTS が行う北朝鮮の羅津・先鋒地域の託児所・幼稚園への栄養食給食事業へ1998年5月から参加しています。現在、私たちはチョサン農場託児所(120名)とユヒョン農場幼稚園(74名)の計194名の子どもたちと結縁を結び栄養食を提供しています。

JTSは子どもたちの成長にとって必須の栄養を供給するためにJTSは北朝鮮に代表事務所を置き、栄養食工場を建てました。JTSは、そこで栄養食加工工場を稼働させ、栄養食を生産し、各託児所と幼稚園の子どもたちに直接、栄養食を配給しています。

結縁とは、羅津・先鋒の子どもたちと「縁を結ぶ」ことを意味しています。結縁者は縁を結んだ子どもたちに栄養食が供給されることを金銭で支援します。

子ども1人に1ヶ月間、栄養食を供給するには、日本円で約500円かかります。結縁の期間は1年間ですので6,000円の支援が必要です。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

## 問い合わせ・申し込みは在日コリアン青年連合(KEY)事務局まで

〒544-0004 大阪市中央区玉造1-13-1-3F

TEL 06-6762-7261 FAX 06-6762-7262 E-mail info@key-j.org

URL <http://www.key-j.org/>

郵便振替 [番号] 00920-1-132271 [加入者名] 在日コリアン青年連合

この「結縁通信」では、朝鮮民主主義人民共和国の略称として北朝鮮という略称を使用しています。発行が大変遅れました。定期的な情報を提供できなかったことを心からお詫び申し上げます。